

講義名	スポーツ科学演習 A (レクリエーション/フットサル)			
担当教員	筑紫 智行			
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 2時限	授業形態	演習	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考
主題と概要				
<p>現在の日常生活において、身体活動量が著しく減少する傾向がみられ、その結果として、生活習慣病の発症が増加している。そのため、日常生活の中で意識的にスポーツを実施し、生涯にわたって健康の保持・増進につとめる必要性が高まってきている。また、我が国は、週休二日制の導入などにより自由時間が増大してきており、それらの時間をスポーツやレクリエーションに費やそうとする人々が増えてきている。</p> <p>本授業では、レクリエーション種目とフットサルを実践することで、生涯にわたって積極的なスポーツの参加につながるような授業を展開する。また、コミュニケーション能力やリーダーシップの育成、克己心やフェアプレイ等の意義を有しており、本授業を通してこれらも身につけられるようにする。</p>				
到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 「健康」獲得の方法を修得できるようになる。 試合やルール、基礎技術を理解し、説明できるようになる。 基礎技術を修得し、生涯にわたるスポーツ実践の礎とすることができるようになる。 				
提出課題				
授業中に指示をする。				
課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック				
授業において指示をいたします。				
評価の基準				
<p>授業実施時間数の4回以上欠席した者は単位を認定しない。</p> <p>授業中の評価：受講態度など.....80%</p> <p>中間期の評価：レポート課題.....10%</p> <p>期末期の評価：レポート提出.....10%</p>				
履修にあたっての注意・助言他				
<ul style="list-style-type: none"> 授業には、運動に適した服装およびシューズを着用すること。 積極的に演習し、行いある態度で授業に参加すること。 天候によって授業計画の変更がある。 授業計画は学習内容をより充実させるために、受講者の技術度、習得度に応じて変更することがある。 				

教科書				
.使用しない。				
プリント資料及び参考文献				
授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス レクリエーション キックベースボール レクリエーション キックベースボール レクリエーション キックベースボール レクリエーション ティーボール レクリエーション ティーボール レクリエーション ティーボール レクリエーション ティーボール レクリエーション フットサルの歴史、ルール、ゲームの進め方の確認 フットサル 基礎技術(シュート、パス) フットサル 基礎技術(トラップ、ドリブル) フットサル 基礎技術 総合練習 フットサル 基礎技術 総合練習 フットサル 対人技術 1対1、2対1 フットサル 対人技術 2対2 まとめ 				
授業形態(アクティブ・ラーニング)				
ア:PBL(課題解決型学習)				イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート				エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション				カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)				
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間				
<p>予習 授業で実施する種目、技術について、ルールブック等を用いて事前に調べること。 課題をクリアする方法を考えること。</p> <p>復習 授業を振り返り、反省点、課題を整理すること。</p>				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
<p>本科目を受講し、目標を達成することで、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力の5項目および、健康スポーツ科学のカリキュラムポリシーへ貢献することができる。</p> <p>集団や個人でスポーツ実践に取り組む中で、明るく元気な、どのような場所でも物怖じすることなく、誰とでもしっかりと言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜く力。つまり「ネアカ」のびのび「こたげず」の精神を育むことができる。また、問題点やその要因を発見し、自らが進んで取り組めるようになる。そして、他者に働きかけ、協力して課題へ取り組みることにより、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。</p> <p>生涯にわたってスポーツに関わったり、健康の維持・増進に努めたりすることができるような知識を得て、理解することができる。</p> <p>以上は、全学部・学科の所属学生へ共通している。</p>				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
実務経験の有無及び活用				
備考				
<p>*オンデマンドでの受講では、以上の到達目標を達成することが難しい。このため、対面授業とする。</p> <p>ただし、新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生については、その期間のみ課題学修などによって対応する。</p>				